

「アジアの集中治療における肺保護換気に関する疫学研究」について

1. 研究の意義・目的

肺保護換気と呼ばれる人工呼吸法で、急性呼吸促迫症候群 (Acute Respiratory Distress Syndrome: ARDS) の患者の死亡率が低下することが示されています。またその利点から、肺保護換気は ARDS 以外の病態に用いることへの関心が広がっています。一方で、肺保護換気が実施されている割合は考えられているよりも低い可能性があることが示されています。今回、アジア諸国の集中治療領域において、人工呼吸を受ける患者での肺保護換気の実施率を明らかにするため、この研究を計画しました。

2. 研究対象者

2019年11月から2019年12月の間に、救命救急センター・ICU・HCUで侵襲的人工呼吸受けられる患者さんのうち、圧調整換気または容量調節換気を受ける患者さんを対象とします。

3. 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。個人が特定出来る情報は転記しません。カルテから転記する内容は入院中の部門・科、年齢、身長、体重、性別、意識状態、血圧、尿量、血液検査（クレアチニン、総ビリルビン、血小板数、血液ガス分析）、人工呼吸を開始した理由、人工呼吸のモードと設定、各種薬剤の使用状況（血管収縮薬、ステロイド、筋弛緩薬、鎮痛薬、鎮静薬、抗精神病薬、気管支拡張薬）、体位、患者さんの生存状況です。

日本を始めアジア諸国の12カ国191病院と共同で行います。

ソウルアザン病院に情報を集めソウルアサン病院（研究責任者 Youn-Suck Koh）が解析します。

4. 研究期間 2019年10月2日（委員会承認後）～2020年12月31日

5. 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

【お問い合わせ先】 済生会熊本病院 呼吸器内科 江口善友（研究責任者）
熊本県熊本市南区近見5丁目3番1号
電話：096-351-8000（病院代表）